

にぎわい

のあるまち

荻窪のまちと人を応援するタウンマガジン『オギボン』。荻窪のにぎわいを感じさせてくれるメディアのひとつです。Vol.24では、荻窪三庭園と、荻外荘展示棟でも販売している「スノーボール」が看板商品の「プチグレース」が掲載されました！



A Sweet Stroll Through the Town.

05. スイーツを探しに、街歩き。

駅前の賑わいから少し離れた先に、小さな「お菓子の宝箱」のような店が待っている。地図を片手にたどり着けば、そこには丁寧に作られたお菓子が並び、思わず笑顔になるようなひとときが訪れる。散歩がてらの小さな冒険で、おいしい“宝探し”を楽しもう。

プチグレース

素材への真摯な思いと長年の感覚が息づく心あたまる手づくり菓子

「おいしかった」と言ってもらえることが、何よりうれしいんです。だから、味に納得がいかなかったときは、すべて作り直しますよ」と語るのは、オーナーの佐藤登志子さん。お菓子づくりが趣味だったのが、その確かな味が評判を呼び、1975年に「プチグレース」を開いた。一度は閉店したものの、再開を望む声に背中を押され、再びこの地でオープンを重ねたという。国産バターや信州産くるみなど、厳選素材で一つひとつ丁寧に焼き上げるのは、看板商品の「スノーボール」と、幻の焼き菓子と呼ばれる「雪月花」。いずれも口に入るとほろりとほどけ、やさしい甘さが広がる。今では都内にとどまらず、関西や遠方から訪れるファンもいるほど。荻窪が誇るその味は、これからも多くの人々を魅了し続けていくだろう。



「スノーボール 15個入り(1,800円)」雪の玉のように丸く、口の中でほろりと崩れる食感は、一度食べたらやみつきに。持ち帰りにはもちろん、自分へのご褒美にもぴったりだ。



荻窪のまちの回遊性向上のために、2024年11月から活躍中の「グリーンスローモビリティ」、略して「グリスロ」。豊島区池袋などでも実装されている、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスです。駅から少し離れたスポットである荻窪三庭園も、グリスロに乗れば気軽に巡ることができます。

できるまち

楽しくやさしく移動

荻窪を、住んでみたいまち、住んでいて良かったまち、これからも住みつづけたいまちにしたい、という地域の皆さんの思いから、まちづくりの一環として、2000年にスタートした「荻窪音楽祭」。先人たちの築いた文化的な風土が残されているこのまちの文化的遺産を、クラシック音楽の演奏を通して次の世代につないでいます。



©「クラシック音楽を楽しむ街・荻窪」の会

クラシック音楽

を楽しむまち



写真提供:荻窪三庭園

駅前や教会、カフェなど、まちなかの様々な場所が音楽祭の会場となります。荻窪三庭園のひとつ、大田黒公園の記念館もおなじみの会場で、大田黒元雄が残した1900年製のスタインウェイの音色を響かせます。

荻窪はこんなところ